

特別支援学級 自立活動学習指導案

場 所
児 童
指 導 者

1 題材名 学級の「アイテムリスト」を作ろう

2 題材について

(1) 教材について

本題材は、「小学校学習指導要領総則」第1章第4の2の(1)のイ・ウを受けて設定したものである。児童の障がい特性に応じた多様で柔軟な学びの場を確保することで、学習上又は生活上の困難を改善・克服することをねらいとしている。ICT活用を含めた様々な体験活動を通して自己のもつ能力や可能性を伸ばしていくことは、将来的に自立し社会参加するために必要な力を培うことへとつながる。

(2) 児童について

本学級は、自閉症・情緒障がい学級である。

午前中は主に国語・算数の教科学習を行い、午後は自立活動を取り入れた指導を行っている。対象児童は、これまでに次のような自立活動を行ってきた。

区 分	主な自立活動
1 健康保持	トランポリン、バランスボール、足ぼっくり
2 心理的な安定	立体パズル、ソーシャルスキルかるた
3 人間関係の形成	ごっこ遊び、場に応じた声のかけ方の話型
4 環境の把握	「タッチで頭の体操」、折り紙、タブレット端末の操作
5 身体の動き	数字タッチ、箸つまみ、棒キャッチ、点つなぎ
6 コミュニケーション	言葉集め、いっどこでだれが何をしたゲーム

(3) 指導について

GIGA スクール構想の実現に伴い、本校にも児童1人につき1台のタブレット端末が導入された。そこで、様々な面での困難さを抱える本学級の児童にも、学びをサポートする便利なツールとしてICT機器を積極的に活用させたいと考えた。

本題材では、自立活動に用いた教材・教具について、ポータフォリオ化できるようにしていきたい。そのために、タブレット端末を用いた写真や動画の撮影、使用した教材・教具の使い方やルールの記録、おすすめポイントやワンポイントアドバイスなど、記録する内容を児童が自ら考えて積極的に取り組めるように支援する。そして、活動の様子をデータ化するという成功体験を増やししながら、個々の児童の自己肯定感を高めていきたい。

(4) 題材の目標

- ・学級内にある様々なアイテム（教材・教具）を使って活動し、その様子をデータ化して、「アイテムリスト」を作成する。
- ・自らの体験をデジタル記録にまとめていく中で、ICT活用のスキルアップを図る。

(5) 自立活動の区分・項目との関連（6区分27項目より）

区 分	項 目
2 心理的な安定	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること
	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること
4 環境の把握	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動
6 コミュニケーション	(3) 言語の形成と活用に関すること

(6) 指導計画・評価（全8時間）

時	ねらい	・主な学習活動☆主な ICT 活用	評 価
1 2	・教室内の教材・教具について振り返り、アイテムリストの作成方法を知ることができる。	・既習の教材教具を使用しながら、使い方について振り返る。 ・デジタル記録へのまとめ方について必要事項を確認する。	・アイテムリストの作成方法を知ることができる。
3 4	・既習の異なる体験内容を個々のデジタル記録にまとめることができる。	☆OneNote の描画・画像挿入機能の使い方を覚える。 (B1) (B4) ・ClassNotebook 内に保存し、お互いの記録を共有する。	・OneNote の様々な機能を試すことができる。
5 6	・既習の同じ体験内容を、協働でデジタル記録にまとめることができる。	☆役割分担をし、OneNote の共同スペース (Collaboration Space) で、同時に編集する練習をする。 (B4) (C3)	・友達と協働で記録をまとめることができる。
7 8 本時	・未使用の教材・教具を使って活動し、その体験をまとめて「アイテムリスト」に追加することができる。	・新アイテムの追加を意識して活動し、情報収集を行う。 ☆OneNote の機能を生かし、自分なりに工夫して作成する。 (B1) (B4) (C3)	・OneNote の様々な機能を生かし、新しいアイテムをリストに追加することができる。

3 本時について

(1) 目標

未使用の教材・教具を使って活動し、その体験をまとめて「アイテムリスト」に追加することができる。

(2) ICT活用のねらい

- ・緊張を緩和するために、導入の場面で電子黒板を使い、「タッチで頭の体操」を行う。
- ・自分の考えを簡単に可視化して整理するために、デジタル記録をまとめる場面で、個人のタブレット端末を使用させる。
- ・アイテムリストを作成するために、ページを足したり同時編集をしたりすることのできるデジタルノートアプリ OneNote の ClassNotebook を利用する。
- ・完成した記録をみんなで鑑賞するために、終末の場面で電子黒板へ投影する。

(3) 分類方法

教師による教材の提示 (A 1) 個に応じた学習 (B 1) 表現・制作 (B 4)
協働制作 (C 3)

(4) 展開

段階	学習内容	指導上の留意点・評価
導入 7分	1 学習内容を確認する。 2 ウォーミングアップ	・学習の見通しを持たせるために、学習メニューと時間の目安を示す。 ICT ☆電子黒板を使い、「タッチで頭の体操」を行う。(A1)
展開 30分	3 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 新アイテムを、こぶし学級のアイテムリストについかしよう。 </div> ○新しいアイテムを選ぶ。 ○「今日のアイテム」を使う。 4 デジタル記録をまとめる。 ○ 役割分担をする。 (例) A「アイテム名と一言感想」 B「写真と図形」 C「使い方の説明」	・前時までの学習を生かして、個々に本時の目標を立てさせる。 ICT ☆個人のタブレット端末を使用し、自分の考えを整理させる。(B1) (B4) ☆デジタルノートアプリ OneNote の ClassNotebook を利用して、同時編集(協働)させる。(C3) 【評価】新アイテムを使用した体験をデジタル記録にまとめ、「アイテムリスト」に追加することができたか。 (観察, デジタル記録)

終末	5 完成した記録を鑑賞する。	ICT ☆ 3人の協働作品を電子黒板に投影し、大画面で出来栄を見る。(A1) ・表情カードの中から自分の気持ちに合うものを選び、本時の振り返りを書かせる。
8分	6 本時の学習を振り返る。	

(6) 板書計画

